



「地域安全マップ」作成における 簡易GISソフトの活用と有効性（三鷹市の例）

菊地 勇¹

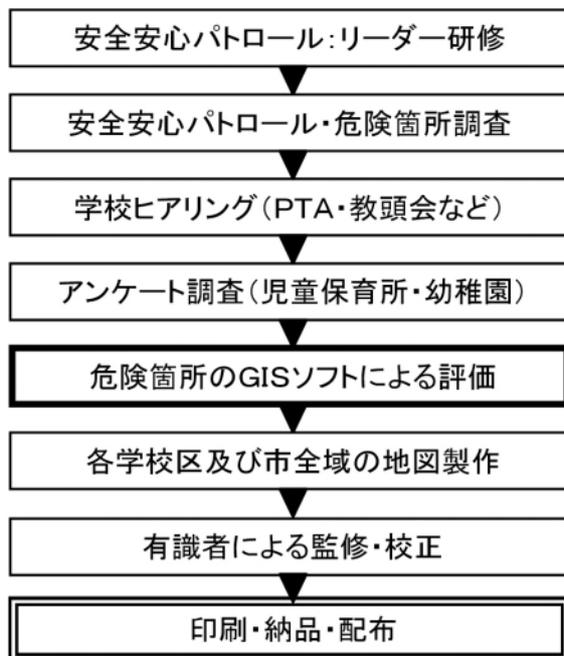
1. 子どもたちと“地域安全マップ”

近年、子どもたちを狙った犯罪や事件が各地で起きております。子どもたちが登下校の際に地域の「危険」について意識を強く持ち、より注意力を身につける意味でも“地域安全マップ”は有効な手段といえます。また、不審者などの“人”に注目するのではなく危険な“場所”に注目することで、マップづくりに価値があり、「犯罪が起こりやすい場所には行かない」、「行く場合は友達と一緒に！」という判断を養うことができます。また、保護者や地域住民の方も子どもたちと一緒に防犯意識の向上を図るうえでも「安全で安心なまちづくり」を目指す“地域安全マップ”づくりは重要な意味を持つこととなります。

2. “地域安全マップ”づくりの流れ （三鷹市の作成事例）

マップ作成は三鷹市生活環境部安全安心課の委託業務で、国の事業である、「雇用・就業機会の創出を図る」を目的とする「緊急地域雇用創出特別基金事業業務委託」制度によりパトロール員などを雇用しマップづくりが行われました。また、マップづくりに当たっては、立正大学文学部社会学科の小宮信夫教授に監修を依頼し“場所”に注目した危険箇所についての理論やプライバシーの問題等にも重点を置き教育・研修を受けて作成に至っております。

1. 危険箇所調査に当たっての事前準備として犯罪に強い3つの要素である「抵抗性」、「領域性」、「監視性」を元にパトロール員リーダーの教育・研修を行いました。
2. 安全安心パトロール活動とともに市内の危険箇所の調査も同時に行い、紙地図に危険箇所を面・点・線の分類によりプロットしました。
3. パトロール員の調査だけではなく、ヒアリング活動及びアンケート調査も並行して行い、「地域で危険と思われる場所」や「日ごろ気になっている場所」について、PTAの親御さんや教頭会、また、防犯協会の方々にも調査を行い、同様に紙地図にプロットしました。
4. 紙地図にプロットした危険箇所をGISソ



¹ 東京カートグラフィック(株)

フト（地図太郎GIS入門編）に取り込み、「抵抗性」、「領域性」、「監視性」を基本としGISの機能を用いて評価（重点ポイントの抽出など）を行います。評価し抽出したGISデータをIllustratorファイルに変換し地図編集・製作を行い、小宮信夫教授の監修のもと、三鷹市、三鷹警察署と十分な調整が成され“三鷹市地域安全マップ”を完成いたしました。

3. GISソフトの活用

“三鷹市地域安全マップ”では危険箇所の調査及びヒアリング活動により作成された“紙地図”を元に危険箇所のGISデータ化を行いました。「抵抗性」、「領域性」、「監視性」とともにプライバシーの観点からGISソフトで評価を行い、今回のマップづくりの基礎資料を作成しました。また、GIS化することで情報の共有化・迅速化、または情報管理が用

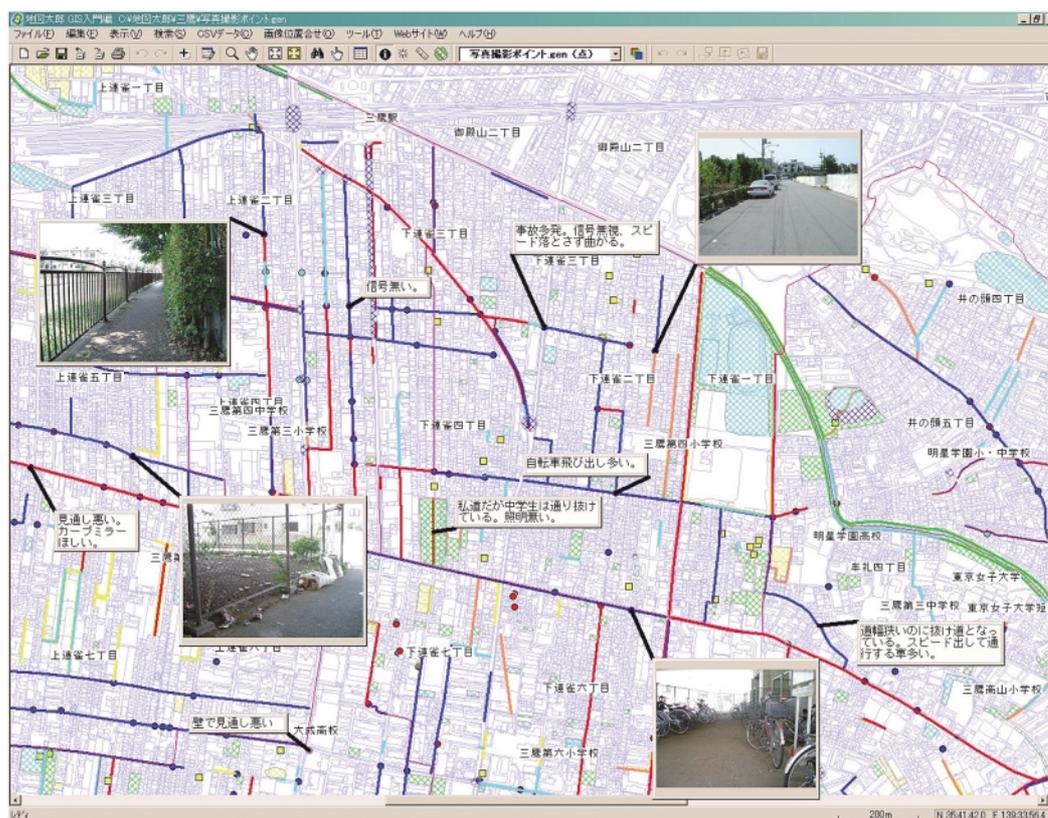
意に行えるなどのメリットもあり、行政などの「安全・安心まちづくり」政策にも力を発揮します。

通学路の経路や危険箇所をデジカメ画像とリンクさせ表示し配布資料にするとともに、時系列のデータとして集積することもでき、属性情報の検索や統合的な分析・解析もできます。

収集した統計情報をもとにグラフ表示や色分け表示も容易で地域の情報を視覚的に、かつ、迅速に地域を把握するツールとしても有効利用が可能になってきます。

4. “地域安全マップの有効性

“マップづくり”で問題が分かったところは改善していく必要があります。例えば草木で死角になっているところは伐採したり、暗い道には街灯を設置するなど「まちづくり」に繋げる要素も含んでおります。また、安全



GISソフトの活用

南浦小学校区ヒアリング用地図



調査用ベースマップ



三鷹地域安全マップ



裏面：ガイドライン

安心パトロールの重点的に行うなどの改善策を検討することにも活用できるはずです。今回の三鷹市が作成したマップは今後、学校や地域でのマップを作成する際の基礎資料（地図面）とガイドライン（裏面）になる有効性を備えており「死角を視覚化」することで地域の危ないところをマップを用いて確認することができ、子どもたちの安全を図ると同時に子どもたち自身も危険を回避する術を身につけられることでしょう。

（発表日2006年7月7日）

発表者紹介

菊地 勇（きくち いさむ）

所属：東京カートグラフィック株式会社
営業部

E-mail：kikuchi@tcg.co.jp